

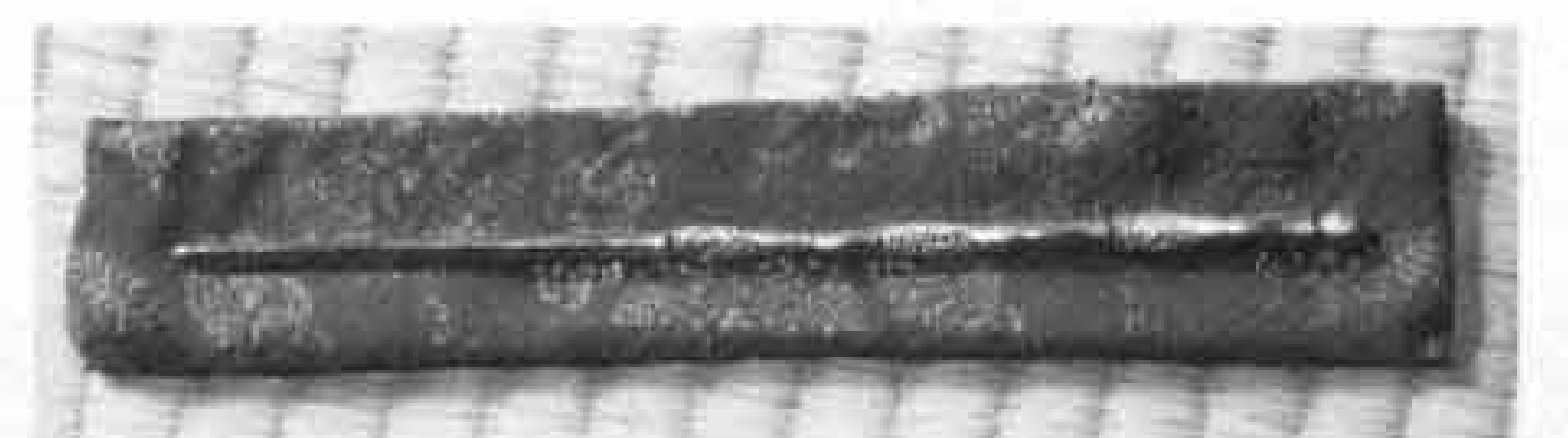
富士の民話 あれこれ

西仲町の

子育て稲荷

中央町三丁目（西仲町）の大運寺だいうんじに子育て稲荷いなりがあります。
病気の子供を持った親が、このお稲荷さんへお参りするとなちまち病気が治ると伝えられています。
今回は、子育て稲荷のお話を紹介します。

昔、大運寺のお坊さんのまくら元へ毎晩のようにあらわれる一匹のキツネがいました。そして、キツネは「和尚様起きてください。私をお稲荷さんに祭ってください」と言います。そこで、和尚さんは、どこからどういいうわけで来たのか聞きました。「私は、京都の伏見稲荷の使いです。「東国に病がはやり、子供が育たなくて困っているところがあるので、お前はそこへ行って子供を守ってやりなさい」と言われてやってきました」と答えました。和尚さんは、キツネは人間をだますのが上手なので、伏見稲荷の使いだという証拠があるのか尋ねると、キツネは金のはしを見せました。早速、伏見稲荷へ問い合わせしてみると、確かに金のはしが一せんなくなっているということでした。
そこで、和尚さんは、境内へほくらをつくり、キツネを子育て稲荷大明神として祭りしました。その後、吉原では、はやり病で子供が死なくなつたそうです。



キツネが伏見稲荷からもらってきたという金のはしと、その事実が記されている掛け軸が、今でも大運寺にあります。



大正から昭和の初めころまでは、由比や蒲原の方からも、我が子の無病息災を祈願するため、たくさんの方がお参りに来て、にぎやかだったようですね。また、十年ほど前までは、毎年二の午うまの日にのぼりが立てられて、お祭りが盛大に行われていました。
現在では、お祭りもなくなりひっそりとしています。今でも、夜泣きに効くといわれて、なぜか人目につかないよう、朝方が夜に子供を連れてお参りに来る人もいます。
吉原地区で行っている史跡めぐりで、このお稲荷さんをコースの中に入れるなど、吉原地区の大切な史跡として後世に伝えていきたいと思っています。



西仲町町内会長
中田 廣ひろさん

こちら編集室

ことしは、元日からさんざんだった。おとそをいただいて、ちょっと昼寝して起きると、左ほかに鈍痛が。鏡をのぞくと、そこにはガマガエルのような顔があった。何と、31歳にして初めて「おたふく風邪」にかかってしまったのだ。おかげで仕事を10日間休む羽目に。

ところが、仕事のおくれを取り戻そうと頑張り過ぎたためか、今度はインフルエンザに感染。この文章を書いている今もなお、高熱やせきに悩まされている。

ことしは、全国各地でインフルエンザが猛威を振っています。皆さんも御注意ください。(病人)

人口 234,958人
男 116,994人 女 117,964人
世帯 75,123世帯 (1月1日現在)
発行・編集 富士市総務部広報広聴課
静岡県富士市永田町1-100 ☎51-0123

